

【読者投稿】 「川越市職員逮捕について思う」

(2013年9月17日)

聡明なる川越市民読者から本紙に投書が無
い込んだので紹介しておきたい。内容を御一
読頂ければお判りの通り、本投書によっても
川合市長の無知蒙昧と厚顔無恥が如実に露呈
される事になった。

詳細は投書に譲るが、その要旨は川合市長
が市の広報紙「広報川越」での発言で引き合
いに出した「割れ窓理論」がルドルフ・ジュ
リアー二元ニューヨーク市長が犯罪撲滅市政
を示す際に提唱したものの受け売りでしかな
いという指摘である。

川合市長はその発言のなかで「割れ窓理論」
なるものが「1982年に米国の政治学者と犯罪
学者が提唱した理論」である旨には触れてい
るものの、それが仮にも川合氏と同じ「市長」
職にあったジュリアー二氏の政策の要であっ
たという出典には言及していない。

投書を頂いた読者氏は「ジュリアー二氏の
パクリ」と指摘されているが、「割れ窓理論
(Broken Windows Theory)」は正しくは1982
年に米国の犯罪学者ジョージ・ケリングが発
表した、犯罪環境学の論文である。このケリ
ング氏が1994年になってニューヨーク市長
に当選したジュリアー二氏の顧問となったこ
とから同市で「割れ窓理論」を根拠とした犯
罪撲滅市政が実践された。

このように「割れ窓理論」は、いわば公的
に発表された学術論文であるから、出典を明
らかにして同理論を行政に応用する限りは特

に「パクリ」の誹りを受けることはないだろ
う。原則的に学術論文や文学作品は出典や引
用である旨を明確に公示することによっての
み盗作ではないことになり、故意や過失を問
わず、オリジナルの発言や文章表現の出典を
示さずにこれを「独自」の発言として転用す
れば場合によっては著作権法違反にさえ問わ
れるのである。

しかし川合市長の発言の場合、川越市民に
対して、あたかも川合氏自身が「割れ窓理論」
に独自に着目し提言したかに錯誤させている
点が「パクリ」と指摘される理由であり、仮
にも公職者である政治家としての品格と倫理
に甚だ欠けるのである。

この理論の存在やニューヨーク市史を知ら
ない日本の川越市民が相手なら出典に触れず
に、自分の独創的で知的な市政提言であるか
に装えたと、川合市長は浅はかにも考えたの
であろうか。発言記事の一部に『かつてニュ
ーヨークのジュリアー二市政が実践した「割
れ窓理論』』と付記することが紙面上困難だっ
たから割愛したとでも釈明するつもりであろ
うか。

いや、この川合市長の広報記事からは、川
合市長の自らの厚顔無恥を顧みずに市民を小
馬鹿にする、その無能な市政を常態化させる
川合市長の根本的に卑しい人格が窺えるので
ある。

川越市民に教養などないとでも傲慢な勘違

いをしているからこそ臆面もなく、国外の学術論文をあたかも「教養ある自分は知っているので紹介しておくが」とでも言いたげな赤面ものの無断引用を独自の高説であるかに得意になって開陳しては悦に入る醜態こそが、そのまま現在の川合川越市政の怠慢と法規も平然と無視する職員の業態に連動しているというべきだろう。

「割れ窓理論」を簡単にいえば「割れている窓を気にせずそのまま放置しているような環境は犯罪の温床になる」というもので、

社会学的な実験でも証明されたことで、現在も有効な理論とされている。

いまの川越市政に於いては、まさに川合市長自身が「割れ窓」なのであり、川合市長を放置することこそが職員の犯罪を生成する市政環境となっている現況からみれば、当の川合市長が「割れ窓理論」を提言するなど、滑稽を通り越した噴飯ものの皮肉といえるだろう。

川合市長には、背伸びをした「割れ窓理論」の援用よりも前に、自身の姿を映す鏡を市長室に置くことを提案しておく。

以下は匿名読者から寄せられた投稿の全文である（原文ママ）

川越市職員逮捕について思う

～ 川合市長さん、あなたは本当に「割れ窓理論」を理解して実践しているのですか？ うわべだけの美辞麗句にはごまかされない市民だっているのですよ。市民は見ている。川越市役所 4 階市長室の「心の割れ窓」を～。

【ネット書き込み:「女子生徒に乱暴」川越市職員を逮捕】

毎日新聞 2013 年 09 月 14 日 10 時 54 分

インターネットサイトで「学園祭を荒らす。女子生徒に乱暴する」などという趣旨の犯行予告を書き込み、県立女子高校の業務を妨害したとして埼玉県警サイバー犯罪対策課と川越署は 13 日、川越市木野目、同市職員、池田直弥容疑者（44）を威力業務妨害容疑で逮捕した。

逮捕容疑は 8 月 23 日ごろから同 30 日ごろ、携帯電話でネット上の掲示板に、同校が 14 日に予定している学園祭で「（生徒を）トイレで拉致する」などと 2 度書き込み、同校の教職員に緊急対策会議の招集や生徒指導の資料を作成させるなど業務を妨害したとしている。

県警によると、池田容疑者は「他人から注目されるのが楽しくて書き込んだ」と容疑を認めているという。9 月に県警職員が書き込みを発見して学校に連絡した。【須藤唯哉】

先日これを目にしたとき、「嗚呼、やはり！」と昨年 5 月 10 日付の広報川越 No. 1270 号掲載の「市長からの手紙」②ゴミの不法投棄対策「割れ窓理論」（川合市長が自身の顔写真入りで自慢げに説明していた）の話が脳裏をよぎりました。

というのは、昨年この広報川越の記事を目にしたときに、「この話は、20 年以上も昔のジュリアー二元ニューヨーク市長の取り組みのパクリであり、単なる受け売りに過ぎない。」と、その底の浅さを即座に見抜いていたからです。

広報川越における川合市長自身の記述では、「「割れ窓理論」という言葉があります。1982 年に米国の政治学者と犯罪学者が提唱した、防犯に関する理論です。…小さな犯罪も、見過ごしたり放置したりせずに、きちんと対処しないと、大きな犯罪が横行するような社会になってしまうという趣旨でしょう。犯罪に関心を持たないということは、新たな次の犯罪を呼ぶことだとも言えます。」と、川合市長自身が、さも米国の政治学・犯罪学の事情に精通していて、34 万中核市のトップ・リーダーに相応しい国際感覚・教養・資質を有していることを誇示するかのとき書きぶりでした。

しかし、実態は単なる「遥か 20 年以上も昔のジュリアー二元ニューヨーク市長のパクリ」にしか過ぎず、私から見れば「周回遅れ（10 年 1 昔で 1 周とすると 2 周遅れ）のトップ・ランナー」以外の何物にも見えませんでした。なぜ、ジュリアー二元ニューヨーク市長の名前をお出しにならなかったのでしょうか？ 同じ市長同士なのに。

でも、私が問題にしたいのは、「パクリの実態をあばく」ということではありません。何故ならば、たとえ「パクリ」であっても良いことはドンドン実行するべきだと考えるからです。ただし、「パクリ」は「パクリ」と正直に説明しておかないと、万が一ばれた時に信用を失墜しますが。

私が真に重要な問題として指摘したいのは、「34 万中核市の市長たる者が、したり顔で偉そうに公言したこ

とならば、それを市民に見える形で真摯に実践すべきである。」ということに尽きます。

ところが、昨年来からの行政調査新聞の記事を拝見していると、今回の事件と同じ川越市市民部の事業で「一方的に約束を破って測量に押しかける」だの「勝手に測量してしまっているにもかかわらず平気で嘘の測量凍結宣言を出す」だの「誤差が出るのが当たり前の大昔の登記簿謄本面積で土地を購入する」だの「市議会委員会で虚偽まがいの答弁を行う」など、市民部職員の不動産ブローカー的行為が目にとります。

市長ご自身が犯罪感覚に鈍感で、このように無秩序で非常識な行為を見過ごして、放置して、対処しないどころか助長されているからこそ、同じ市民部内で今回のような「市民部市民課職員の威力業務妨害による逮捕」という非常識で「破廉恥な事件」に繋がってしまったのではないのでしょうか？

このような経緯をつぶさに見ると、昨年の川合市長の「割れ窓理論」のご立派なご講話は、「うわべだけの言葉でしか物事を判断できない御しやすい川越市民」へ向けたお得意の「公平・公正ごっこポーズ」に過ぎなかったことが良く分かります。

川合市長さん、あなたは本当に「割れ窓理論」を理解して実践している御つもりなのですか？ 私には、どう見ても実践して結果が伴っているようには思えません。参考のために私が本当の「割れ窓理論」の意味を教えてくださいあげましょう。それは、「一つの無秩序の放置が、コミュニティ全体の秩序維持機能の低下につながり、犯罪多発の原因となる」ということなのです。

しっかり勉強して下さい。うわべだけの美辞麗句にごまかされない「自立した市民」が川越市にも存在するのですよ。自立した市民は不用意に大きな声を出しません、急所は見逃しません。市民を馬鹿にしないで下さい。

今度こそ、都合の悪いことは見過ごさず、放置せず、毅然として対処していただかないと、そのうち取り返しのつかない市民部の大きな犯罪に繋がってしまい、ゴミ（市民部職員の犯罪）がゴミ（他部職員の犯罪）を呼んで、川越市役所全体の秩序維持機能が乱れて「川越市役所が市民に不法投棄（不祥事の連鎖による市民税支払の拒否）」されても知りませんよ。ご本家米国のジュリアー二元ニューヨーク市長が実践された本物の「割れ窓理論」の趣旨に従って。

私は非常に心配しています。川越市役所 4 階市長室の「心の窓」はもう既に修復しようもないほど「割れ果てている」のではないかと。川合市長さん、一刻も早く、まず「心の割れ窓」から修復してください。「耳を傾けるべき言葉には素直に耳を傾け、詫びるべき時には潔く詫びる。」それが全ての物事の始まりだと思います。それができなければ、当たり前前に解決する問題でも決して解決しません。

もし、そんなことで後世に「不確かなもの」を残したとしたら、それは市民にとって悲劇以外の何物でもないでしょう。組織の行く末の 9 割はリーダーの手腕で決まると言われます。歴史あふれる埼玉県西部の中核市の 21 世紀の輝ける未来は、生かすも殺すも、川合市長さん、ひとえにあなたの手腕にかかっていることを決して忘れてはいけません。私には、今回が修復の最後のチャンスのように思えてなりません。「自立した市民」は、34 万全川越市民のためだけでなく、あなた自身のためにも「心の割れ窓」の修復を願い、その様子をじっと見守らせていただきます。